

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	荒井 久徳

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

わたしたちの生活と食料生産（水産業のさかんな地域）

#### 1-2. 学年

5 学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

社会科

#### 1-4. 単元の概要

我が国の水産業に関心を持ち、水産業が自然環境を生かして営われ国民の食生活を支えていることや、水産物には外国から輸入しているものがあること、主な漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きを理解するとともに、国民生活を支える水産業の発展について考えようとする。

我が国の水産業の様子から学習問題を見だし、地図や地球儀、統計などの資料を活用するなどして調べたいことをノートや漁業別地図にまとめるとともに、水産業の様子と自然環境や国民生活とを関連づけて思考・判断したことを適切に表現する。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

本小単元は、学習指導要領の内容（２）ア（イ）「食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること」と、イ（イ）「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること」を取り扱うものであり、その中でも水産業について学習するものである。本小単元では、我が国の水産業の概要を捉え、その現状及び従事する人々の工夫や努力を理解し、これからの食料生産について考えることをねらいとしている。我が国は、世界有数の水産物消費国で、自然環境を生かした豊かな漁場に恵まれ、昔から水産業との関わりが深い。一方で、近年は水産資源の減少や水産業従事者の減少と高齢化、水産物の消費量の減少など、様々な課題もあることから、その現状や課題、解決方法について関心を高め、それらを様々な立場から考察できるようにさせたい。

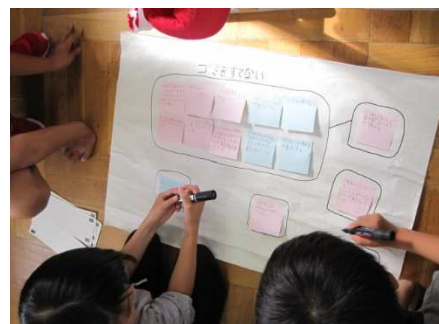
また本小単元は、総合的な学習の時間で取り扱う「只見の郷土料理に使われる海水魚・ニシン」とも関係がある。総合的な学習の時間で学ぶ「ニシンの獲れる場所」や「ニシンの漁法や輸送方法」などの内容とも関連させながら指導を進めていくことで、水産業についてより身近に感じるようにさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

調べて分かったことや友達の見解などの情報を客観的な見方で吟味し、受け取ることができるようにすることで、批判的に考える力を高めさせていきたい。情報を受け取った後は、自分の考えを再構築させ、学びを拡大・深化させるようにする。さらに、調べてわかったことや自分の考えを発表させる際には、友達の見解に耳を傾け、その意見につなげながら自分の意見を話すことができるようにし、コミュニケーションを行う力を高めさせていきたい。

1-7. 単元の展開（全7時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	日本の水産業について、地図や統計資料をもとに、気づきや疑問を整理し学習問題を作り、学習計画を立てる。	我が国の水産業の様子について水産業が盛んな代表的な地域の事例を調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。（思判表）
2	写真やイラスト、漁港の人の話などから、まき網漁の様子や工夫など、わかったことをノートにまとめ、発表する。	長崎漁港の漁業の特徴に関心をもち、沖合漁業で行われるまき網漁における工夫や努力について、意欲的に調べている。（関意態）
3	写真やイラストから、長崎漁港にある施設や水揚げされた魚が食卓に届くまでの流れについてわかったことをノートにまとめ、発表する。	漁港には様々な機能があり、新鮮なうちにすぐに消費地へ届けるための様々な輸送の工夫がなされていることを理解している。（知理）
4	一本釣り漁法や焼津からどのくらい遠くまで漁に出かけているかについて調べたことをノートにまとめ、発表する。	資料を活用して、焼津漁港の水産業の特長やかつお漁の漁法の違いやよさ、工夫していることを読み取り、ノートにまとめている。（技能）
5	水揚げされたかつおを新鮮なまま運ぶための工夫や日本の漁業の様子について調べてわかったことをノートにまとめ、発表する。	我が国は世界有数の水産国でありながら、漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱え、養殖漁業や栽培漁業、水産物の輸入が増えていることを理解している。（知理）
6	ほたて貝の養殖漁業やひらめの栽培漁業の様子、工夫や努力についてわかったことをノートにまとめ、発表する。	つくり育てる漁業は生産量が安定するよう計画的に行われ、また資源管理などの様々な工夫や努力が行われていることを考え、ノートにまとめている。（思判表）
7	水産業の課題を解決するにはどうすればよいかを考える。（本時）	水産業の課題を解決するためにできることを考え、表現している。（思判表）



## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目



### 2-2. 本時の目標

水産業の課題を解決するためにできることを考え、表現し、友達と話し合うことを通して、これからできることについて考えを深めることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 水産業の課題を知り、本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 水産業の課題について知る。</p> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水産業の課題を解決するために、できることは何だろうか。</p> </div> <p>(3) 考える際の視点を確認する。</p> <p>2 水産業の課題を解決するために、何ができるか考える。</p> <p>(1) 自分の考えを付箋に書く。</p> <p>(2) 付箋を活用し、グループで話し合う。</p> <p>(3) グループごとに発表する。</p> <p>(4) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生) つくり育てる漁業にも力を入れる。</li> <li>・(生) 水産資源を大切にする。</li> <li>・(消) 水産物の消費量を増やす。</li> <li>・(消) 水産業を多くの人に知ってもらう。</li> </ul> <p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 児童たちの話し合いをもとに、本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水産業の課題を解決するためには、生産者と消費者が共に力を合わせていかなければならない。</p> </div> <p>(2) 本時の振り返りとして、これからできることについて、考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水産業の課題について資料や写真で確認することで、より視覚的に課題を捉えさせるようにする。</li> <li>○ ニシンの漁獲量の変化についての資料を取り扱うことで、より身近に課題を捉えさせるようにする。</li> <li>○ 生産者の視点、消費者の視点について確認することで、自分の考えを持ちやすくさせる。</li> <li>○ 生産者の視点、消費者の視点、それぞれを別の色の付箋に書かせることで、グループでの話し合いの際に、意見を分類しやすくさせる。</li> <li>○ 生産者の視点と消費者の視点でつながることがないかを児童に考えさせることで、両者の視点には関連があることに気づかせるようにする。</li> <li>○ 児童の考えをもとに本時のまとめをすることで、より児童の思考に沿ったまとめになるようにする。</li> <li>◇ 水産業の課題を解決するために、これからできることを考え、表現している。(ノート・発表)</li> </ul>

### 3. 今回の活動の自己評価

- これまでに学習したことを模造紙にまとめ掲示したことで、子どもたちがそれらを活用しながら、自分の考えをまとめたり、話し合ったりすることができた。単元を通して学んできたことが視覚的に分かるように、既習事項を蓄積していくことの大切さを感じた。
- 教師の方から一方的に学習課題を与えるのではなく、資料から問題意識をもたせ、学習課題を全体で共有するという流れにすることで、子ども主体の授業とすることができた。
- グループ活動の手順を口頭で説明するだけでなく、黒板に明記したり、提示したりすることでスムーズに活動をさせることができた。
- 付箋に考えを書く際、視点を明確にさせることで、グループや全体で仲間分けする際に有効に働き、子どもたちはスムーズに話し合いを進めることができた。
- 振り返りを書かせる際、「自分だったら」という視点や新しい視点で書かせることで、子どもの考えを深めさせることができた。

### 4. 今後の課題

- 水産業の課題をより自分事として考えられるように、地域の水産業（養殖等）の内容を取り上げるなど、単元構想の工夫も必要であった。
- 資料を子どもたちに提示する際、写真資料はインパクトがあるので、教師がそのまま見せてもよい。だが、グラフ資料は細かいところまで読み取らせなければならないので、子どもたちの手元に配る方がよかった。
- グループで意見を分類させる活動と全体で意見を分類する活動は、時間的にも内容的にも無駄が多かった。話し合いの目的を明確にし、本時のねらいを達成させるための適切な手立てを講じられるようにしたい。
- 授業を組み立てるための説明・指示・発問（攻めの指導言）を重要視すぎてしまった。そうではなく、子どもたちの実際の発言や反応に対する教師の切り返し・反応・揺さぶり（受けの指導言）を重要視し、ねらいに迫れるようなコーディネート力を身につけていかなければならない。
- 批判的に考える子どもは何人かいたが、全員に考えさせることができなかった。「批判的に考える」とはどのような姿なのか、教師がモデル像を明確にし、子どもたちと共有する必要があると感じた。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

子どもたちは総合的な学習で只見の郷土料理を学習した際に、「ニシン」が使われていることを知った。ニシンは水揚げ量が減っており、その資料を授業の導入で使用した。これにより、ニシンの捕れる量が減っていることが分かり、問題意識をもたせることができた。また漁業従事者が減っていることや全体的な漁獲量が減っていることも知り、「水産業の課題を解決したい」という思いをもった。児童のより身近に感じるものを教材にするよい。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。